

令和5年度第2回湖西市環境審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和6年2月26日（月） 13:30～14:55
開催場所	湖西市役所2階 市長公室
出席者	（委員）7人中6人（1人欠席） （事務局）6人

内 容

1 開会

事務局 環境課長あいさつ、資料確認

2 会長挨拶

平井会長：会長を仰せつかっております。平井でございます。恐縮でございますけれども、一言ご挨拶をさせていただきたいと思っております。

能登半島の大きな地震、このことで正月から大変だったわけでございますけれども、そういう中で改めて私思いますのは、いろいろと感じるのですが、1つ目として、とにかくレジリエンス対応の必要性ということですね。レジリエンスっていうのは、やたらと最近流行語みたいに使われているのですが、災害復興力、何かあった時に、いかに復興をスピーディーに、効果的・効率的に進めていくかというような概念のことでございますけれども、そのことの必要性、インフラが全部ストップしてしましまして、電気も水もトイレも非常に困っちゃうわけでございますけれども、そういう中で、例えばこうした環境というキーワードの中のレジリエンスということになると、やはり電力会社から電気を供給してもらっているとなかなか復興までに時間がかかる。

その間いかにローカルエネルギーをそういう形の中で構築しておくかということが必要になるわけでございますので、例えば太陽光であるとか、もろもろ含めてですね、EV車なんかもそうなのでございますけれども、そうした中で少しでも自分たちで、地域で資源を活用して自立分散型の社会を作っていく。こんなことの必要性を改めて感じたというところがあるわけでございます。

南海トラフの問題がいろいろと静岡県でも問われておるわけでございますので、30年以内に大きな地震が80%以上の確率で来るとかということもあるわけでございますから。改めて、我々静岡県人としても考えていかなきゃいけないのかというふうに思ったということが1つあります。

それともう1つ、最近、今年の夏もそうなのですが非常に暑かった。毎年暑さがどんどん進んでいって、私は昭和の人間なので、昔の夏は30度になると暑かったのですが、今35度にならないと暑いという感じがなくて、もうすぐ40度になってくると。

こんなようなことの中で、いかに二酸化炭素を中心とした温室効果ガスを減らしていくか、これは、気候変動適応法に基づいた温室効果ガスの削減をしていく仕組みのあり方が問われているということがあられるわけですが、なかなかそうは言っても、CO₂の排出量が減るところか増えていく一方だということの中で、

やっぱり気候変動適応法という法律が平成30年にできたのですが、そうした暑くなってくる気候に我々の社会生活をどう合わせていくかということも考えていかなきゃいけない。

つまり緩和と適応と我々よく言っているのですけれども、そうした気候変動適応法とそれから地球温暖化対策推進法の両輪でやっていくと、こういったことになってくるのだらうと思います。

今日はその辺りの議論もあるわけですから、そういう中で最近非常に言われているのがクールシェルター。暑くなった時に、やはり冷房28度とずっと言い続けてきたのですが、家庭にて冷房28度でセットしておきますと、お年寄りや熱中症になっちゃうケースがあるということの中で、こうした湖西市で持っておられるような、公的な施設を何かの時に、皆さん暑いときには来ていただいてですね、それをクールシェルターとよく言っているのですが、そういう概念なども必要だよねと最近よく問われているということが2つ目としてあります。

それから3つ目として、私も環境省の委員会などに出させていただくことが多いのですが、LCCO₂という言葉が最近出てきます。

例えば日本で言うと、EV車って環境に優しいということが一般的に言われているわけですが、確かに電気自動車は、走っているときは環境に優しいのですけれども、あれを充電するときには、日本の場合75%は化石燃料で電気作っていると。そういうことになりますと、その電気は二酸化炭素を排出しながら作った電気です。充電しているということになると、全体的に考えるといかがなものかといった議論、これは、子供たちもよくそういうことはもう分かっているわけですが、そういうことの中でLCA(ライフサイクルアセスメント)、ゆりかごから墓場までということをよく言っているのですけれども、車が原料から加工されて、製造されて、それから流通でお店に持ってこられて、それを皆さんに買っていただく。それで乗る、そして何年か経つと、それがもうポンコツになって廃棄される。

その処理、EV車などは大きなバッテリーを積んでいますから、あの処理にも相当いろんな意味での環境負荷がかかる、そういうことを全体で考えることもLCCO₂とよく言っているのですが、建物ビルとか、我々が住んでいる家などもそういう概念で考えなきゃいけないじゃないかというようなことがあるし、そういう流れの中で、湖西市でもDX推進課があるようだけれども、我々の世界、環境でいうとグリーントランスフォーメーション、GXですね。こうした環境というキーワードの中で社会変化を起こしていくということで、とにかく環境ということを考えてときには、地球環境に優しいエネルギーをどんどん作っていく。それと同時に、それによってその地域の経済の活性化もしていくのだと。

それからもう1つ必要なのは、エネルギーの安定供給にも寄与していくのだと。この3つがGXの非常に重要なキーワードになっているのですけれども、そんなことのあり方を、やっぱり世界的な大きな企業とか、国連とかが考えるだけではな

くて、やはり地域の我々、よく地域循環共生圏と言っているのですが、自立分散型社会を作っていくためにも、湖西市としてのローカル GX のあり方が今後問われてくるということになるのだろうと思います。

そんなことも含めていろいろ考えていくと、なかなかやることばかりだということになるわけですが、そういう中で、今日は、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとするために、湖西市における地球温暖化対策に関する施策をまとめました「地球温暖化対策実行計画区域施策編」の内容について、前回に引き続き審議してまいりたいということになります。

今申し上げたようなことも含めて、湖西市としての2050年カーボンニュートラル、ゼロカーボンシティ宣言に向けた考え方はどうあるべきかということについて、皆様方に協議していただいて、この実行計画を今日は環境審議会としてまとめ上げて、最後に市長に答申させていただくと、こういうような流れでいきたいと思いますので、ぜひ今日がある面では最後の機会でございますので、地球温暖化対策実行計画のことについて、皆様方から有意義なご意見を賜ることをお願いしまして、会長を仰せつかっている立場としての挨拶に代えさせていただきます。

どうぞ、今日はよろしくお願ひいたします。

3 審議事項

(1) (仮称)湖西市地球温暖化対策実行計画(素案)について

平井会長：今日は先ほど申し上げましたとおり、皆様方に協議していただいた結果につきまして、答申を市長にさせていただくという、そういうような流れを予定しておりますので、そんなことも含めまして、審議事項がスムーズに進行できますよう皆様方のご協力をお願いしたいと思います。

それでは早速でございますけれども、事務局からお配りいただいております審議事項の(1)ということになります。まだ仮称でございますが、湖西市地球温暖化対策実行計画の区域施策編の素案について、事務局からご説明をお願いします。

事務局：(仮称)湖西市地球温暖化対策実行計画(素案)及び気候変動適応計画について説明

〈質疑・意見〉

平井会長：はい、ありがとうございます。パブコメでいただいた意見に基づいて修正した点であるとか、私も述べさせていただいた気候変動適応法対応について、適応計画の作業もいよいよ具体的な作業に入っているとのこと説明をいただいたわけでございます。

それではこれもいろいろ協議会でだいぶ練っていただいていると思いますけれども、最終的には我々審議会でも市長に答申をさせていただくということもありますので、今事務局の方からご説明いただいたことも含めて何かお気づきの点等ありましたら、特に実行計画の素案についてご意見を承りたいということになりま

すので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

もしなかなか難しければ、一通り順番にお聞きしてもよろしいですかね。

感想でも結構です。清水さんの方から。

清水委員：わかりました。感想になりますが、1週間前に資料をいただきまして、読ませていただきました。

ページの20ページ、21ページからその辺のところを見ますと、やっぱりカーボンニュートラルというのは大変だと。非常に困難なことだということがよくわかりました。

これで一通りプランはできましたので、この後はPDCAのDとCとAですか、こっちに進んでいるわけなのですが、より大変だと思います。その辺のところを一つよろしくお願ひしたいということでございます。

平井会長：わかりました。

河合委員お願ひいたします。

河合委員：私も特に意見はないですが、企業側としてももちろん同じように進めていかなくてはということもありますので、当然市と一緒に協力して、2050年に向けて一緒に頑張っていきたいと思ひます。

平井会長：ありがとうございます。

井川委員：私はこの資料を見させていただいて、とても難しいという感想を持ちました。

地球温暖化という言葉は見たり聞いたりして、世界的に問題になっているということで承知はしているのですが、日常生活の中でどんな影響があるのかとか、どんな対策をしていったらいいかというのは、まだまだ市民の皆さんの意識は低いと感じていまして、これを見てもわかりづらいです。

それで市ではこのようにたくさんの施策を実施していただいているのですが、市民の皆さんがこの内容をどれだけ知り得る機会があるのかと考えたときに、あまり多くはないのではないかと感じました。

私もこの委員になって初めてこういう資料を見させていただいて、初めてこんなことをやっているのだと知りました。それから、難しい数字ばかりで、とても市民レベルでは理解できないなという感想を持ちました。

はっきりとは覚えていないのですが、大阪市だったと思うのですが、こういう施策をカルテとして作成して、簡潔明瞭に一般市民にも理解できる形で、概要やきっかけ、進捗状況、公表・報告などをカルテで策定して、市民が見られるよう、プロセスの過程を見える化していくということをやっているという話を

聞いたような気がしたのですけれど。

それを市民の皆さんが見ることで、本当に意識が高まって、行動に移せていけると思っていますので、わかりやすく提供して、こういう施策をちょっと見える化していただけると、あの本当に難しくて、意見とか質問も困ってしまいますので、そういったところをもうちょっとレベルを下げてわかりやすく、解説していただいたり、情報提供していただいたらいいかなというふうに感じました。

平井会長：これは、概要版みたいなものは作られますか。

事務局：もちろん概要版として、大体4ページ程度のもう少し簡便なものを当然作りますし、あとこちらで言うと、38ページと39ページ、こちらの意識啓発と広報活動という具体的な取り組みを示しておりますが、実はもうゼロカーボンシティ推進協議会の委員からもこの普及啓発をなおざりにしてはいけないと、本当にここが一番重要なのだというご意見頂戴してまして、今のこのご時世ですとSNSとか、それこそ自治会とかそういったところを契機として、実際にもう少しわかりやすい形でゼロカーボンに向けて取り組むことが、取り組めることがこれだけありますよというような普及啓発をどんどんやっていきたい。

どうしてもこれが一発目なので、まさにいろんな施策を束にして、作ったものですので、どうしてもこれだけぱっと見てしまうとなかなか難しいという印象は持たれるかもしれませんが、この中の具体的取り組みというところで、地道な普及啓発というものはなおざりにしてはいけないだろうと、そこは地道にやっていきたいと思っております。

平井会長：はい、よろしいですか。ありがとうございます。

尾川委員：計画のことではないかもしれないのですが、適応力というところで、大きなくくりで湖西市があって、その中に企業があって、個人の家庭があるということを見ると、市民としては1人ひとりどうしたらこの目標に向かって貢献というか、一緒に取り組んでいけるのかと考えたときに、脱炭素に向け対応していくその理由は、地球温暖化になってしまうと、どうなっていくのかという具体的な例が、だからこういうことをしようというような具体的な案内をしていただけたらなと感じます。

この冊子を読んでも数字のことが本当に、単位のことわからないですし、人も動物も酸素を吸って二酸化炭素を排出しているし、生活の中でもそういうことになっていると思いますけれども、プラスマイナス0へ向かっていくことを考えたら、二酸化炭素を吸っているものは何かということも、大きく教えていただきたいですし、そしたらそれを増やしていくっていう、減らすだけではなくて増や

していく取り組みもあるかと、拙い知識の中で感じてしまいますけれども。

地域によっては、1軒家を建てる時にその地域については、何本か木を植えなきゃいけないところに家を建てたという知人がいて、それはどうしてかと思ったときに、景観という意味もあったかもしれないのですけれども、地球温暖化にも貢献できる植物だったのかなと、今日の会議とその友人から聞いた話を合わせると、そういうふうになるので、減らすっていうことだけではなくて、二酸化炭素が排出されたものを活かしてくれる、それを活かす何かがあったら、それを増やす方法があったらいいと思います。

私の感想はそこまでです。

平井会長：ありがとうございました。何かよろしいですか。

事務局：冒頭の1ページで今気温が上昇していますということで、世界規模で脱炭素、地球温暖化対策を進めていく必要があるという機運が高まっているところが当然あります。

湖西市はご存知のとおりものづくりのまちでして、そういった意味では自動車産業としてお仕事をしている企業も数多くあります。

今後、脱炭素化を企業として取り組みを行わないとサプライチェーンから排除される、つまり、もうお宅とは商売できないよというような、そういう状況も今後起こりうるという位、欧米においてはこの脱炭素を本気で取り組んでいかないと商売の方にもだいぶ影響を与えるような、気候面の話から実際の日々のなりわいにまで影響してくる可能性があると言われております。

そういった中で、冊子にしてしまうとどうしても堅苦しい印象を受けてしまうかもしれませんが、いろんなパーツで、こういった取り組みをやる、やった方がいいのではないかというようなところは極力記載させていただいて、あと後ろにも用語集ということで解説もつけさせていただいております。なので、我々としてもそこは丁寧に説明していきたいと考えております。

後は、木の話があったかと思いますが、今回、我々が掲げる目標としては、省エネ以外に吸収量ということで、森林吸収、これがまさに先ほどの木の話に該当するかと思いますが、こういったところも湖西市ですと、例えば湖西連峰、非常に豊かな森林が存在するというので、そういったところの保全を行うことで、そういった吸収というものも行っていきたいと考えております。

いずれにせよ今後わかりやすい形で、別途作成している概要版を用いて、丁寧に住民の皆さんには説明していきたいと考えております。

以上です。

平井会長：はい、ありがとうございました。

ということで、一通りご意見を承ったという形になります。

私の方で、6 ページにもありますけれど、湖西市のゼロカーボンシティ宣言、2021 年の 7 月 21 日、新聞でも大きく出ていましたけれども、影山市長が宣言していただいて、2050 年のカーボンニュートラルに向けて、これから湖西市として頑張っていくのだと、まさに宣言されたと。

じゃあどうやって進めていくのかという指針になる、ベースになるものが今日皆様に議論いただいている地球温暖化対策実行計画ということになるわけです。

私認識不足だったのですが、事務事業編も 40 ページ、41 ページ、42 ページ辺りで入れていただいているということですね。別立てでやっているのかと思ったのですが、入っているんですね。

事務局：以前は事務事業編単独としていましたが、今回、区域施策編を策定したので、他の市町もこういった形で一つの冊子に区域施策編と事務事業編が併存しているパターンが多いので、そちらを参考にさせていただきました。

平井会長：それでよくわかりました。

そんなことの中でまず 1 つとして、これ他の市でもよく出る議論で、牧之原市の杉本市長が審議会で盛んにおっしゃっていたのですが、20 ページをご覧くださいますと、結局どの市もそうなのですけども、湖西市全体で CO₂ 排出量を見ると、産業界が圧倒的に多いのです。

ですからこうしたそれぞれのご家庭で皆さんやっていただくということもとても大事なのですが、やはり全体を減らすとなると、湖西市の産業界がどうやって一枚岩になるかということが不可欠です。

意外とその辺もおろそかになって、家庭の省エネばかり議論する自治体さんが結構多いので、その辺を環境省も、そうじゃなくてもっと全体を捉えた中での議論が必要じゃないかと、そこで急激に出てきているのが、例えば各地区の商工会議所さんが、非常に頑張る農業団体さんとか、焼津では漁協さんがこの辺に相当関わってきています。漁協っていうのは船が走るのでディーゼルでいっぱい出すわけです。そんなようなことも含めて。

そうすると湖西市の特徴を踏まえた中で、こうした産業界の皆様方が、まさに先ほど出ましたゼロカーボンシティ推進協議会も絡んでいただいていると思いますけれども、どういうふうに具体的に頑張っていくのか、これがとても大事で、一般の我々が思っている以上に、産業界は脱炭素に向けて危機意識を持っています。

俺らは関係ないと 3 年前に言っていた衆が、いやそうでもないらしいということで、もう世界的に大手がそうなっているものですから、皆さんご存知の SDGs とか。産業界は ESG をよくやるのですが、TCFD とか SBT、RE100 などいろんな横文字

が飛び交っているのですが、もうとにかく二酸化炭素を排出しない企業でないと取引しないというのが、ヨーロッパでは当たり前になってきている。だから頑張らなきゃいけない。飛行機も、これから SAF といってバイオ燃料でないとドイツとかフランスの飛行場に降りられなくなってしまうのです。だから今 ANA も JAL も必死なのですけれども、そういう状況です。

飛行機なんかもそう。じゃあヨーロッパ、ドイツなどに毎日飛行機が行っていると思いますが、ああいった空港などは結構厳しいです。そんなことも含めて、やはりその湖西市の産業界の皆様方が、今後この計画に基づいて、どういうふうに関わっていただくのか、この辺をやっぱり行政当局もいろいろとまたリーダーシップを発揮していただいて、頑張っていたかなきゃいけないのかなというふうに思ったのが一点。

それからもう 1 つ、27 ページ、28 ページ、29 ページ、この辺は結構大事でして、湖西市として自分たちで電気を作る力をどれだけもっていくかということは結構大事です。

何かあった時に、コロナの時もそうだったけれども、これも国の会議でよく出るのですが、国に何とか助けろとか、静岡県なんとか助けろとか、その行政頼み的になりがちなのだけれど、でもやっぱり自分たちが、自分たちでしっかりと頑張るっていう力も付けとかなきゃいけないじゃないかという考え方も非常に最近、重要視されている。

これ能登半島の地震も含めてですね、そうした時に、こうした具体的な省エネの推進と再エネ等の普及のあり方っていうことを、湖西市としてこの 31 ページのところにある地域循環共生圏というのですが、自立分散型の社会を形成して、地域資源をいかした中でローカルエネルギーを作っていく、これを他力本願で行政に頼むっていうことだけじゃなくて、自分事として、やっぱ湖西市の皆さんにも考えていただくことが、非常にこれから問われてくるのだろうということがあります。

これがまさに地震の対応などでいわれるレジリエンス、災害復興力ですね。

そんなことも含めて、脱炭素先行地域みたいな話もまた出てくると思いますけれども、いろんな形で湖西市の皆様方も、ちょっと大変恐縮ですが、なかなかわかりにくいテーマかもしれませんけれども。

どうですかね最近、湖西市も夏暑いですよ。だからそんなことで、このままいくと、今年の夏は 40 度超えるか超えないかみたいな議論にもなってくるわけですから、こうした実行計画をどういうふうこれから活かして、具体的に進めていくかということの真価が恐らく問われていくと思いますので、またよろしくお願ひしたいと思う次第でございます。

(2) 答申書(案)について

平井会長：それでは、これを市長に審議会としてはこの形でいいのではないのでしょうかということを答申と言うのですけれど、ご報告をさせていただくということをして今日3時からやることになっていますので。市長に対して我々審議会として、この計画の答申を、この答申書を付けて答申をさせていただきたいと考えています。

その案をちょっとご紹介いただけますでしょうか。

事務局：答申書(案)について説明

〈質疑・意見〉

平井会長：ということで、見ていただくと分かるのですが、付帯意見として下に6番までありますけれども、いろいろと、湖西市ゼロカーボンシティ推進協議会でも出た意見も踏まえて、それから皆様方のご意見も踏まえて、こういうような意見も添えて、この計画案は我々審議会としては妥当ですというような、答申をさせていただくということです。

これでよければ、このまま事務局でこれを正式に作っていただいて、3時からお渡しすることになります。何かここをこういうふうに変えてもいいのではないかとご意見があるかどうかということですね。

皆様方にお伺いしたいのは、何かこの部分が足りないじゃないかとか、ここ言いまわしがおかしいじゃないかとかそんな話ですけども。

特に無ければ、そのままということでもよろしいですか。

これ、私もいろんな市の会議やらせていただきますが、こんなに丁寧に意見が出ているものはあまりないです。付帯意見が無いケースもあるし、あっても1つか2つだけでもあります。これだけ丁寧にいろいろと皆様方の気持ちが入った文章になっているので、私はいいかないと思いましたが、これでよろしいですかね。

はい。それではこの形で正式に。

それでは、今日の審議事項はこれで全て終了いたしましたので、皆様方に一通りご意見を承ったことのお礼を申し上げまして、今日の進行を返させていただきます。

ご協力、大変ありがとうございました。

4 報告事項

環境部各課の取り組みについて

事務局：会長ありがとうございました。

それでは、次第の4といたしまして、報告事項に移ります。

内容につきましては、本市環境部の環境課、廃棄物対策課、水道課、下水道課の4課から、現在取り組んでいる状況につきまして、皆様にご理解いただきたい

ということで、この時間でご報告させていただければと思います。
最初に環境課からご報告させていただきます。

環境課：ゼロカーボンシティへの取組状況について説明

事務局：環境課の説明は以上となります。

今の説明について、何かご質問等ございましたら、ここでお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは次に、廃棄物対策課から主要事業について説明させていただきます。

廃棄物対策課：廃棄物対策課の主要事業について説明

事務局：廃棄物対策課の説明は以上となります。

今の説明について、何かご質問等ございましたら、ここでお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは次に、水道課から説明させていただきます。

水道課：湖西市水道事業料金改定計画について説明

事務局：水道課の説明は以上となります。

今の説明について、何かご質問等ございましたら、ここでお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

平井会長：老朽化のところで、他の市、例えば静岡市は今、配管を全部10年かけて取替えるということをやっているのですけれど、この度の能登半島でも水道が止まってしまっていますが、湖西市の老朽化の心配はどうでしょうか。

水道課：やはり、更新の時期は当然来ております。整備した路線がかなりたくさんございますので、同時に更新するのはなかなか厳しいところがございますので、重要管路といわれるような、配水場と避難所を直結するものであったり、病院と直結するようなところは、確実に更新の年度内にて更新をさせていただいて、利用が少ないところについては、更新年数を少し超過してでも整備をしていくという計画の中で、進めさせていただいております。

平井会長：わかりました。ありがとうございます。

事務局： それでは最後に、下水道課から説明をさせていただきます。

下水道課： 下水道課主要事業について説明

事務局： 下水道課からの報告は以上となります。今の説明に対して質問等があればお受けいたしますが、いかがでしょうか。
よろしいでしょうか。

5 閉 会

事務局： 以上で次第の4報告事項、環境部各課からの取り組み状況の報告は終了いたします。

長時間にわたりましてご審議をいただきありがとうございます。本年度については、2回の委員会を開催させていただき、皆様にご出席いただきましてありがとうございました。

本日の審議会については、これにて終了させていただきます。